

『コロナ禍で学ぶ2030年の心豊かな暮らし方のか・た・ちを考える』

孫が大人になったときにも笑顔あふれる未来であってほしい…

地球環境を考えることは心豊かに暮らすことなのです

SuMPO 理事長 石田 秀輝

酔庵塾 塾長

地球村研究室 代表

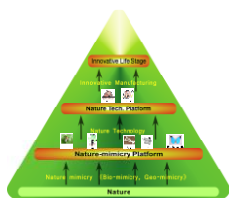
東北大学名誉教授

SuMPO Director Emile H. Ishida

Suian School of Lifestyle Design Senior

Earth Village Research Lab. Representative

Prof. emeritus at the Tohoku Univ.



2014年 沖永良部島に移住し、『間抜けの研究』を開始しました。



地球村研究室は
鹿児島県奄美群島
沖永良部島『酔庵』にあります

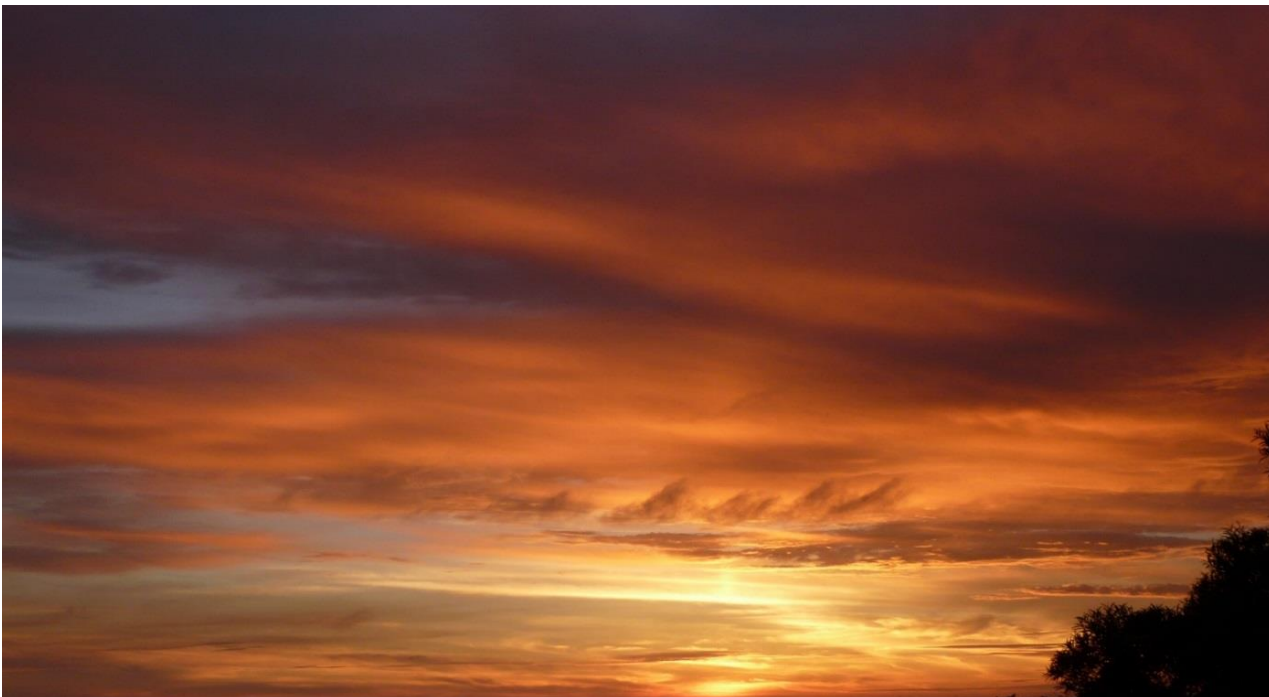


Suian

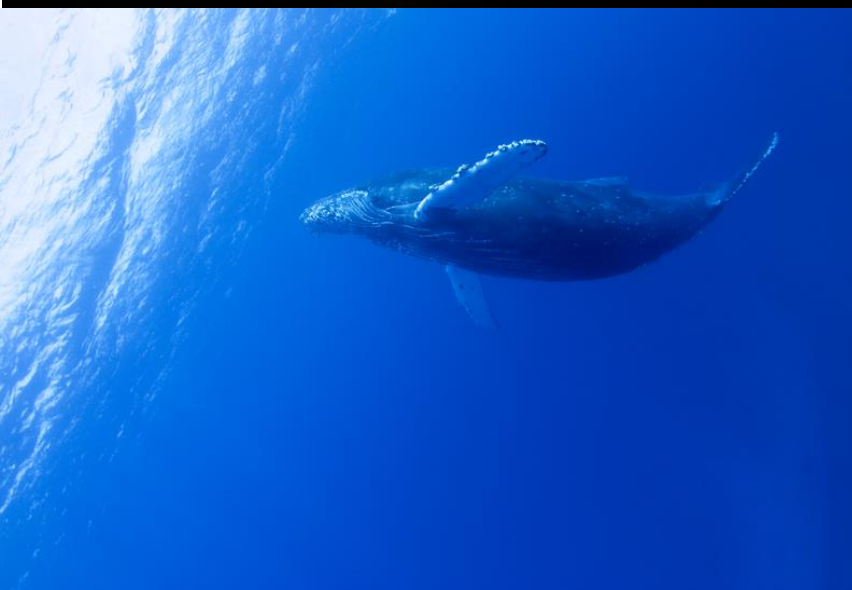


**酔庵です、毎年毎年、色々と進化しています、床も壁も土でエアコンは使っていません。
蓄電池システム、太陽熱温水器の導入で購入するエネルギーはほとんどありません。**

Copyright at Emile H. Ishida, Earth Village Research
Lab. LLC

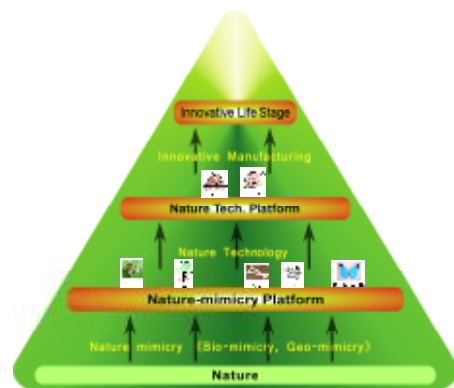


島での暮らしは、三密とは無縁の環境です！

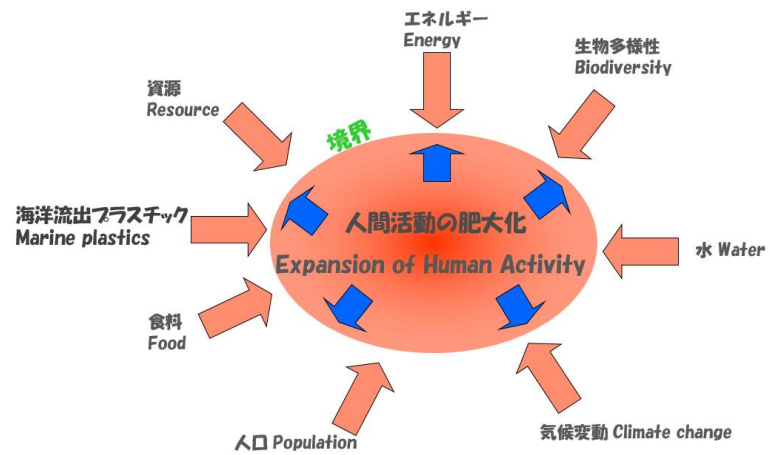


Copyright © Eimie H. Ishida Earth Village Research Lab.

1. 持続可能な社会創成のために 今何を考えなくてはならないのか？



地球環境の劣化 Degradation of Global Env.

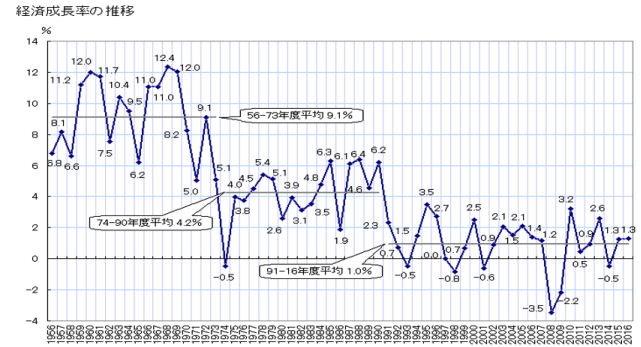


限界
Reach a limit



新定常化社会
Steady Society

従来の延長(公共投資、大イベント)で、日本の経済成長は支えられるのか?
Extension of the past politics can lead the economic growth?



(注) 年度ベース。複数年度平均は各年度数値の単純平均。1980年度以前は「平成12年版国民経済計算年報」(83SNAベース)、1981～94年度は年報(平成21年度確報、83SNA)による。それ以降は2008SNAに移行。2017年4-6月期1次速報値 <2017年8月14日公表>
(資料) 内閣府SNAサイト

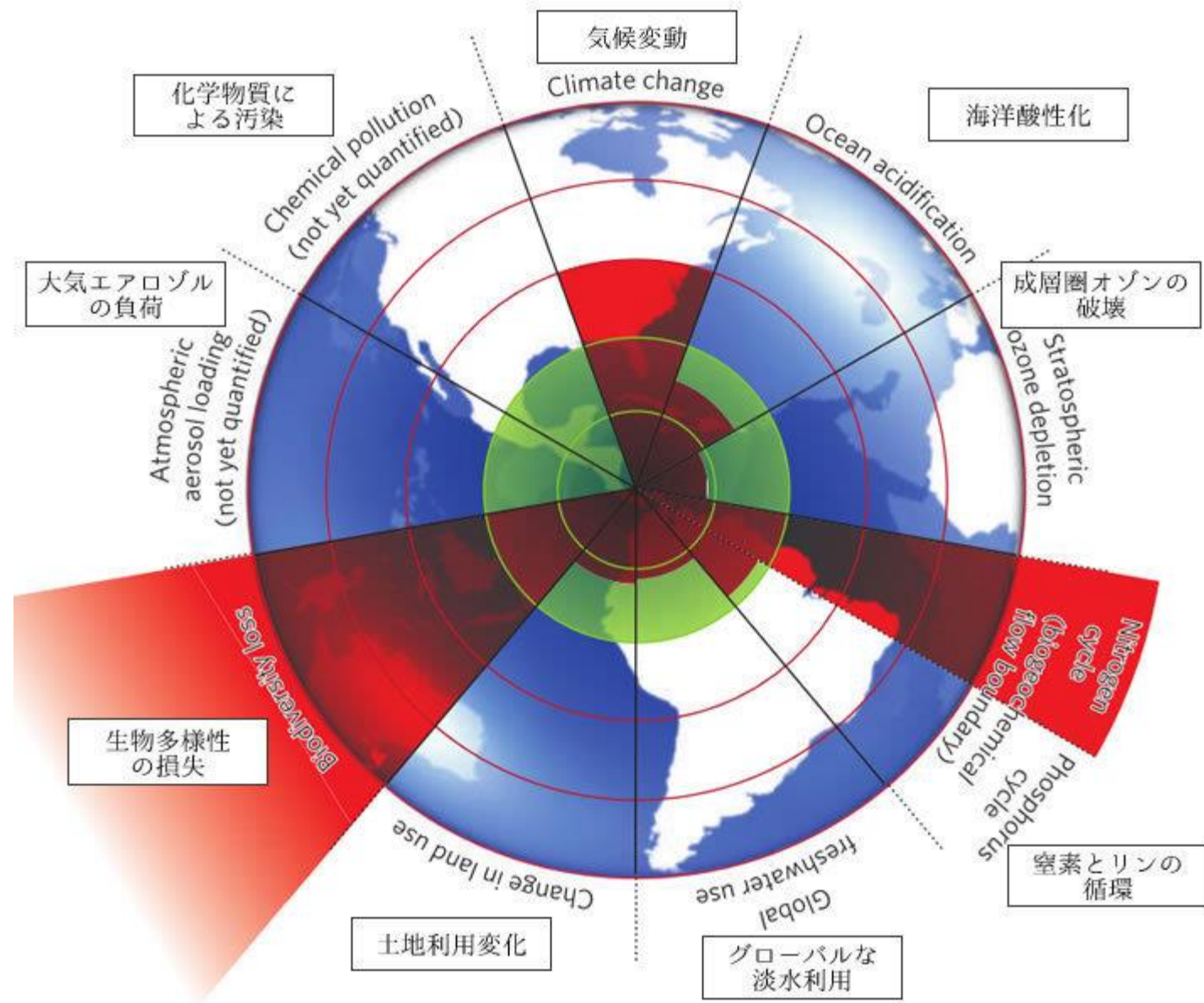
⇒ **社会の閉塞** ⇒ **少子高齢化・人口減少**

Sense of Stagnation **Low birth rate and longevity**
/ population decline

グローバル資本主義の劣化 Degradation of Financial Capitalism

地球環境の限界とは

地球環境問題とは
人間活動の肥大化である



スウェーデンのヨハン・ロックストローム博士が提唱した「プラネタリー・バウンダリー」
(参照：Rockström, J. et al. 2009. A safe operating space for humanity. Nature, Vol. 461, pp. 472-475)

気候変動

パリ協定 2016.11発効

21世紀末の地球の平均気温の上昇を
産業革命以前に比べて2°C未満、さらに1.5°C未満を目指す

2018.10 IPCC 1.5°C特別報告書

1.5°C以上で急激に環境は劣化、1.5°C未満に留めるためには、**2030年までに二酸化炭素排出量を2017年比49%以上削減し、2050年までに二酸化炭素の純排出量をゼロにすることが必要**

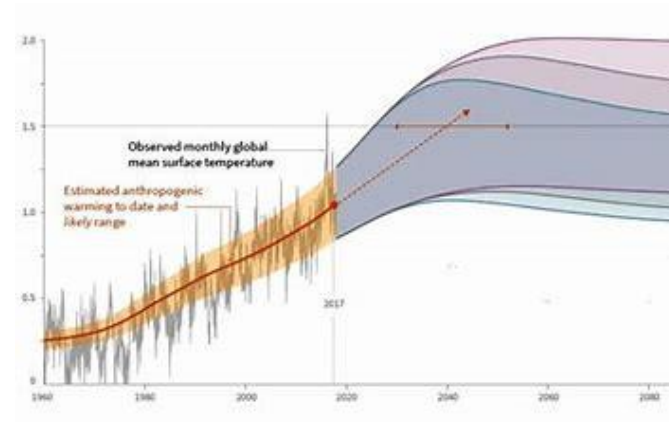


2019.09.23 国連気候アクションサミット グテーレス事務総長

2050年までに二酸化炭素の純排出量**ゼロでは不十分**（気候感度の上限修正）

2050年までのゼロエミッションの公約のためさらなる削減量が必要、

各国の合算では3°C以上の気温上昇となる可能性が高い



生物多様性

生きている地球指数

脊椎動物の個体群の規模が過去40年間で半減

世界の生物多様性の状況は、かつてないほど悪化している。何千種におよぶ脊椎動物の個体群動態を計測する「生きている地球指数」(LPI)は、1970年から2010年の間に52%低下した(図2)。これは、全世界の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類の個体数が、平均すると40年前の約半数になったことを示す。地球全体の生物多様性を忠実に反映するよう、最新の手法を用いたところ、以前に報告された値をはるかに上回る減少という結果となった。

生物多様性は温帯と熱帯の両方で低下しているが、熱帯の方が低下の幅が大きい。1970年から2010年の間に、温帯の生きている地球指数は1,606種の6,569の個体群で36%低下した。熱帯の生きている地球指数は1,638種の3,811の個体群で56%低下した。最も減少したのは中南米で、83%の低下である。低下の主な原因は、生息地の消失と劣化、狩猟と漁業による利用である。主な脅威として次に挙げられるのは気候変動で、将来、個体群にさらに強い圧力をかけるとみられる。

世界平均 -52%
温帯地域 -36%
熱帯地域 -56%
中南米 -83%

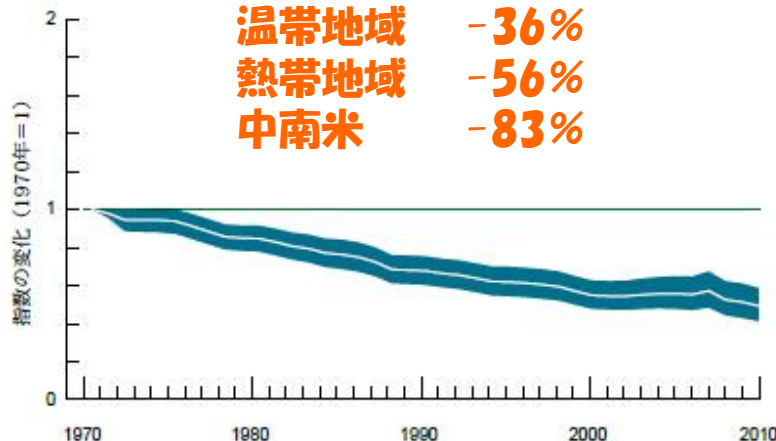


図2:生きている地球指数(LPI)
世界の生きている地球指数は1970年から2010年の間に52%減少した。これは、平均すると脊椎動物種の個体群は約40年前と比べて半分規模に減少したことを示す。この指数は3,038種の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類の10,380の個体群動態をもとに計算されたものである。白線は指数の値を示し、陰影部分は95%の信頼限界を示している。(WWF, ZSL, 2014)

凡例

- 世界の生きている地球指数
- 信頼限界



陸域の生きている地球指数

1970年から2010年の間に陸域の生きている地球指数は39%低下

1970年~2010年の間に陸域の生物は39%減少し、この傾向が衰える兆しはない。人による土地利用、特に農業、都市開発、エネルギー生産での利用による生息地の消失が、引き続き主な脅威であり、さらに狩猟の脅威もある。



淡水の生きている地球指数

淡水生物種の生きている地球指数は平均76%低下

淡水の生きている地球指数は平均76%低下した。淡水生物種に対する主な脅威は、生息地の消失と分断、汚染、外来種である。水位の変化と淡水系のつながりの変化—例えば灌漑や水力発電所などによる—が、淡水の生息地への主な影響である。



海洋の生きている地球指数

1970年~2010年の間に海洋生物種の生きている地球指数は39%低下

1970年~2010年の間に、海洋生物種の生きている地球指数は39%低下した。1970年~1980年代半ばの間に最も減少し、その後やや安定していたが、最近になって再び減少傾向に転じた。減少が最も激しかったのは熱帯と南大洋で、ウミガメ類、多数のサメ類、ワタリアホウドリなどの大型渡り鳥が減少している。

昆虫が、**過去27年間で75パーセント減少**していた
このままだと、100年以内に、地球の昆虫がすべて絶滅してしまう

自然界の植物の**90パーセント**が昆虫によって受粉されている



昆虫がいなければ、ほとんどの植物は生きられない



植物がいなければ、ほとんどの生き物は(昆虫も)生きられない、人間も...

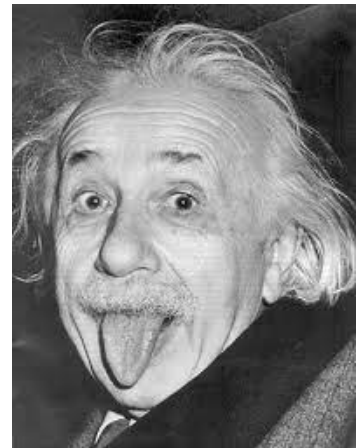


農業、都市化、森林伐採による生息地の喪失、汚染。そして、侵入種や病気などの生物学的要因と気候変動

<https://indeep.jp/100-percent-insect-extinction-in-100-years/>

If the bee disappears from the surface of the earth, man would have no more than four years to live. No more bees, no more pollination, no more plants, no more man.

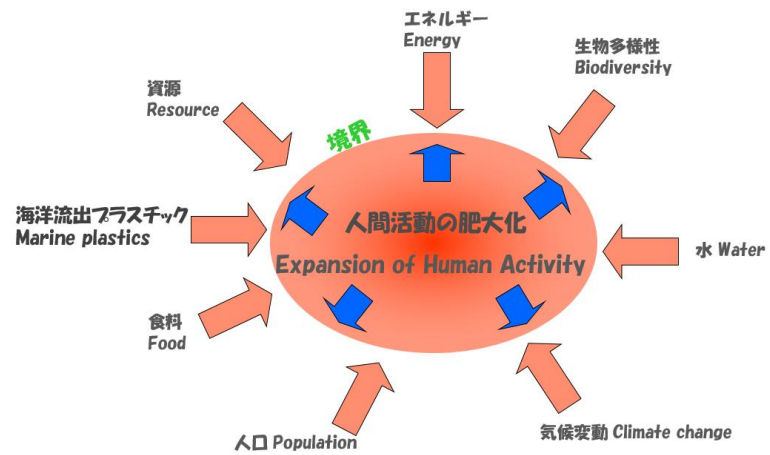
「もしハチが地球上からいなくなると、人間は4年以上は生きられない。ハチがいなくなると、受粉ができなくなり、そして植物がいなくなり、そして人間がいなくなる」



アルバート・アインシュタイン

<http://blog.livedoor.jp/nwknnews/archives/4429299.html>

地球環境の劣化 Degradation of Global Env.

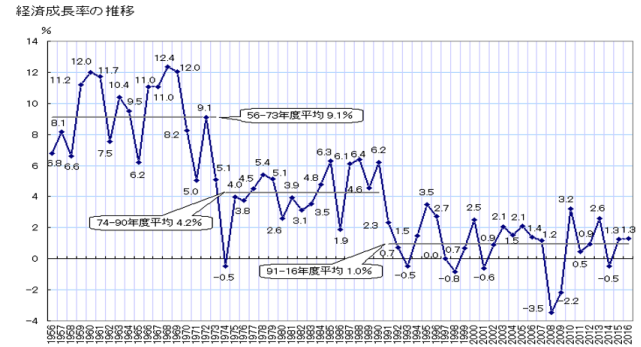


限界
Reach a limit



新定常化社会
Steady Society

従来の延長(公共投資、大イベント)で、日本の経済成長は支えられるのか?
Extension of the past politics can lead the economic growth?



(注) 年度ベース。複数年平均は各年度数値の単純平均。1980年度以前は「平成12年版国民経済計算年報」(83SNAベース)、1981～94年度は年報(平成21年度確報、83SNA)による。それ以降は2008SNAに移行。2017年4-6月期1次速報値 <2017年8月14日公表>
(資料) 内閣府SNAサイト

⇒ **社会の閉塞** ⇒ **少子高齢化・人口減少**

Sense of Stagnation **Low birth rate and longevity**
/ population decline

グローバル資本主義の劣化

Degradation of Financial Capitalism

資本主義の限界とは

資本主義の限界とは「これ以上負債が拡大できない」あるいは「これ以上経済成長できない」こと
経済成長を阻害しているのが、富の偏在と格差

資本主義は、富を偏在させる。富の偏在が格差となり、経済成長を阻害する。

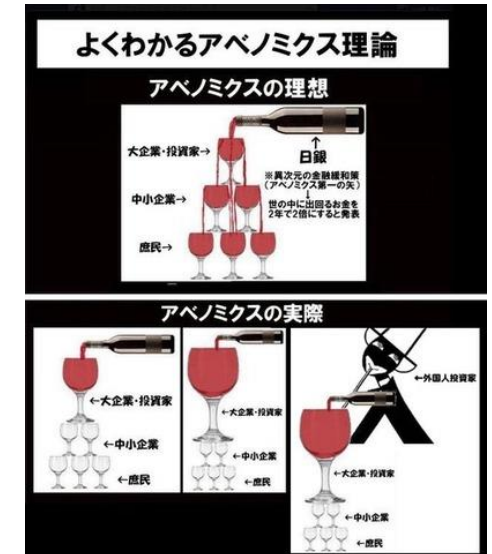
資本主義とは、放任しておくとも自滅する経済形態

資本主義をコントロールし、規制できるのは政治

現在の資本主義の形態 = グローバリズム・新自由主義(1980's)
(小さな政府、自由な競争を煽り、資本主義を放任)

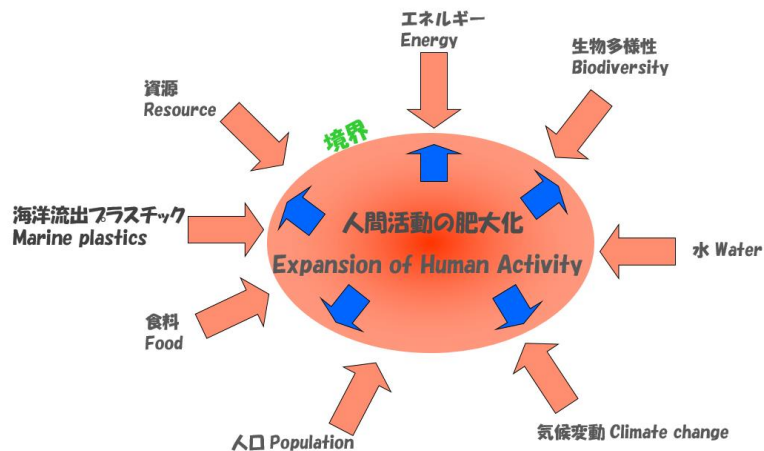
政治無き資本主義の限界 自国ファースト 極右政党の台頭 (今だけ、金だけ、自分だけ)

政治や人が主であり、お金は従である本来の価値に戻す ⇒ 豊かさの再定義



<http://blog.livedoor.jp/bfr4cadg/archives/1942860.html>

地球環境の劣化 Degradation of Global Env.



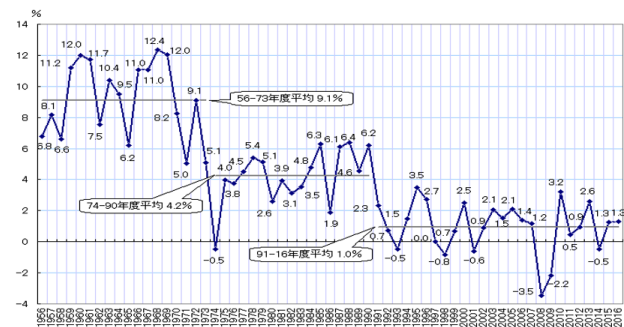
限界
Reach a limit



新定常化社会
Steady Society

従来の延長(公共投資、大イベント)で、日本の経済成長は支えられるのか?
Extension of the past politics can lead the economic growth?

経済成長率の推移

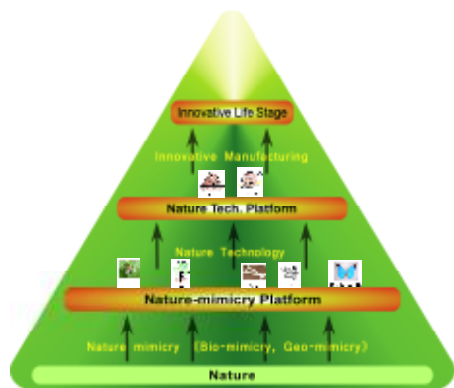


(注) 年度ベース。複数年平均率は各年度数値の単純平均、1980年度以前は「平成12年版国民経済計算年報」(83SNAベース)、1981~94年度は年報(平成21年度確報、83SNA)による。それ以降は2008SNAに移行。2017年4-6月期1次速報値 <2017年8月14日公表>

(資料) 内閣府SNAサイト

グローバル資本主義の劣化 Degradation of Financial Capitalism

2. コロナ禍で 何を調べ、何を学んだのか？



2020.05.27

<コロナ禍に学ぶあたらしいライフスタイルの探案>

『コロナ禍に学ぶ2030年の
心豊かな暮らし方のか・た・ちを考える』
<Ver.1>



石田秀輝 Emile H. Ishida

emile.h.ishida@gmail.com

東北大学名誉教授、(一社)サステナブル経営推進機構(SJMPO)理事長、地球村研究室代表、醸造塾塾長、星槎大学サテライトカレッジin 沖永良部島 校長 沖永良部島観光親善大使。

本提案書は、一木典子さん(㈱オレンジページ 代表取締役社長)、蓮井幹夫さん(有限会社 蓮井幹生写真室 代表)、黒木潤子さん(株)インター・ビュー代表取締役社長)を管理者・モデレーターとして公開された「2030年の心豊かなライフスタイルを考える」Face Book 公開グループに参加頂いた240名の方々の貴重なご意見、および東北大学大学院環境科学研究科に開校した社会人大学院SEMSeT(高度環境政策・技術マネジメント人材養成ユニット)修了生のうち20名を超える有志のご参加による3度のWEB会議(コーディネーター:東京都市大学環境学部教授 古川柳蔵さん)、(一社)サステナブル経営推進機構(SJMPO) 壁谷武久専務理事及び理事会の皆さんとのWEB会議を通して議論した意見をバックキャスト視点で纏めたものである。

コロナ禍の大変な折に貴重なご意見やご助言を頂いたこと、改めて御協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。今後、さらにキーワードを集め、たくさんのライフスタイルを描き、そこから、新しいビジネスや政策を提言する予定です。

これからも、このコロナ禍の危機(Ocrisis)をあたらしい機会(Chance)に、そして新しい文明創成につなげるため、さらなる御協力を頂ければ幸いです。

<注> 今回のコロナ禍は、企業経営という立場からは、多くの危機的状況を発現させ、生活者の立場からは雇用契約の破棄、雇い止めなどの大きな経済的ダメージを生み出した。また、家庭内ではDVによる被害なども発生させた。本提案では、これらの要素については一切触れていない、あくまでも今回のコロナ禍での気付や学びを2030年の暮らし方(ライフスタイル)にどのように活かすべきなのかをバックキャスト視点で纏めたものである。

目次

1. はじめに	
1-1 視点1 地球環境制約	3-4
1-2 視点2 金融資本主義の限界	4-5
1-3 視点3 クライシスのリバウンドは環境負担を上げる	5
2. コロナ禍で学んだこと(仮説)	
2-1 バックキャスト思考で見えてきた 2030年暮らし方の7要素	6-8
2-2 7要素に必要なキーワードの収集	9
2-3 2030年の心豊かな暮らし方のか・た・ち キーワードから見えてくるライフスタイルイメージ	10-13
3. 2030年の暮らし方のかたち キーワードとライフスタイル	
3-1 地域での暮らしを大切にし分け合うようになります ライフスタイル1-1 自分流の暮らし方 ライフスタイル1-2 お父さんはえらい! ライフスタイル1-3 本社は田舎です! ライフスタイル1-4 田舎暮らしはカッコいい!	14-18
3-2 知識や教養が大切にされます 文化芸術は生命維持装置(命の次に大事なもの) ライフスタイル2-1 それが自由の相互認証! ライフスタイル2-2 粋な目利きは変わり者?	18-20
3-3 地域でつくれるものは地域で創ります ライフスタイル3-1 お家もサーキュラーエコノミー! ライフスタイル3-2 都市から堆肥がやって来る! ライフスタイル3-3 AIが叱られる!	20-23
3-4 自然をもっと意識した暮らしになります	24-25
3-5 健康であることが大切にされます	25-26
3-6 お金をかけずに生活を楽めます	26-27
3-7 時々思い切って贅沢します	27-28
4. あとがき	28

ライフがワークの形やビジネスの形を変え得ることが明らかになった

移動の自由を追求してきた社会に警鐘が鳴らされた

グローバリズムへの問い直しが起こった

ローカルな世界で生きることの価値が改めて問い直されている

国家も含めた大きな組織の揺らぎと崩壊の中で、小さな可能性を持った組織が新たなかたちを構築しつつある
(日本の変化に対する能力の不足(レジリエンス力))



人類は究極的な目的(自由の理念の実現)に向かって進歩し続ける

フリードリヒ・ヘーゲル(1770-1831)



個として色々なことをデザインできる能力を持たねばならない

個：個人、家族、関係者、小さな企業、小さな行政

コロナ禍から見えてくる未来をどう創るのか？

— 基本的な概念 自分(家族)でデザインする —

暮らし 個で暮らしをデザインする

- 生活や暮らしの場は家族や地域や自然とともに
(自分らしさ、家族らしさ、地域らしさを大切に)

X会社(のルール)を家庭に持ち込む
都会には子供部屋はあっても大人部
屋はない

仕事(産業) 個で仕事をデザインする

- テレワークか会社に出掛けるかは自分でデザインする
- 1-2-3次産業が小さくボーダレス化し、
サーキュラーエコノミー(CE:循環経済)が基盤
商材(モノ)は再生、長寿命、製品のサービス化が前提で、
大量生産という概念は希薄になる
- 田舎と都会の境界は無くない、田舎は世界とつながる

自営と勤務の境界の無い人(ボーダレス)は今
でも起業家の94%勤務
者の56%(意識)

EUでは2020.03にCE
AP2.0と同時に欧州新
産業戦略を発表、グリーン
とデジタルのツイント
ランジション

学び 個で学びをデザインする

- 自分のペース、自分に合った学び方や場所、必要に応じて必要な人の力を借りながら、人に力を貸しながら、時には学年(や年齢)を超えて「緩やかな協同性」に支えられた「個の学び」が尊重される

自由と自由の相互承認
(苦間野一徳)
非認知的能力への移行
リカレント教育

地球環境視点からは？ 個として暮らしをデザインした結果？



新型コロナウイルスの影響で、温室効果ガスの排出量が世界的に激減している

新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）による経済活動の停滞で、温室効果ガスの排出量が急減している。なんと中国だけでも国内のCO2排出量が25パーセントも減少した計算になるというが、これを専門家は一時的なものにすぎないと指摘する。どうやら話はひと筋縄ではいかないようだ。

NATURE
2020.03.26 THU 19:00

パンデミックの影響で「CO2排出量が17%減」という結果は、気候変動対策で人類が進むべき道も示している

新型コロナウイルスの影響で世界中の都市がロックダウン（都市封鎖）したことで、4月初旬までのCO2排出量が1日当たり**最大17パーセント減**（2019年度比）になったことが明らかになった。（**米英などでは30%減**）だが、実は最も減少した日でも2006年の水準であることから、**パリ協定の目標達成に向けた道のりの険しさ**が見てとれる。

それと同時にパンデミックによる**行動様式の変化によって、わたしたちができる**ことも浮き彫りになってきた。

（中国 -242メガトン 米国-207メガトン EU -123メガトンCO2）

NATURE CLIMATE CHANGE
2020.05.21 THU 09:00
TEXT BY MATT SIMON
[WIRED\(US\)](https://www.wired.com)

「自身の無知について、そして不確実性の下で行動しなければならないという重圧について、これほど多くを学んだことはかつてなかった。」

ドイツの哲学者 J. ハーバマス

フランクフルト学派第2世代

『コロナウイルスは、21世紀に支配的なイデオロギー体系の弱点を暴露する。このイデオロギーには、**自然科学と技術の進歩だけで、人間的・道徳的進歩を押し進めることができる**という誤解も含まれる。この誤解は、自然科学の専門家が一般的な社会問題を解決できると信じるように、私たちをそそのかす。』

ドイツの哲学者 マルクス・ガブリエル



Jürgen Habermas



Markus Gabriel

<https://shinsho-plus.shueisha.co.jp/news/8624>

**コロナ禍で物資の移動が大きく制限され、温室効果ガスの排出量は-30%
これは日本の目標である2030年-26%に匹敵（現実的には-50%が求められている）**

コロナ禍 — 『三密』 = 2030年の社会

今、我々はバックキャストしなくても2030年の世界に居る**のです！！**

だからこそコロナ危機をチャンスにしなくては未来の子供たちに手渡すボタンが創れなくなるのです

ヨーロッパ人の1/3が死んだ「黒死病」、歴史の教訓

西暦1347年のある日、地中海の港に停泊した大型帆船から、歴史上最も危険な疫病の1つが解き放たれた。

積荷や乗客に紛れて上陸したネズミたちには、病原菌をもつノミが付いていた。同じことがヨーロッパじゅうの港で繰り返された結果、1347年から1351年にかけてヨーロッパを襲った黒死病のパンデミックは史上最悪の規模となり、ヨーロッパの人口の3分の1(2500万人)が命を落としたとされる。

黒死病から新しい機会や創造性や富が生まれ、そこからルネサンスの芸術や文化や概念が開花し、近代ヨーロッパが始まった



絵画『死の勝利』（ピーテル・ブリューゲル、1562年）には、社会に壊滅的な打撃を与えた疫病と戦争がヨーロッパ人の想像力に残した強烈な印象が描き出されている。

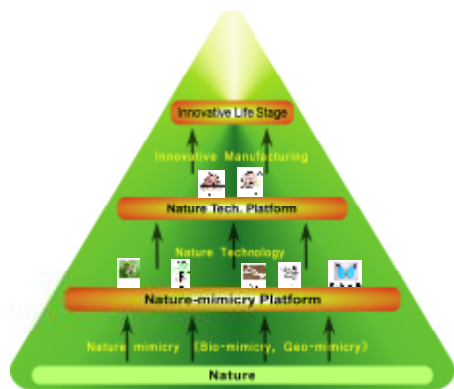
(PHOTOGRAPH BY ORONOZ/ALBUM)

コロナ・パンデミックから何かを学ぶことはできるのだろうか？

危機を機会に！

https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/20/042700261/?n_cid=nbpng_mled_html&xadid=10005

3. 我慢ではない 心豊かな暮らし方のかたちとは？



光り輝く未来が、
沖永良部島にあった！
物質文明や金融資本主義社会はもろ限界です

石田秀輝

ワニブックス

離島に住んで考えた、
持続可能で
心豊かな暮らし



2015.12
ワニブックス

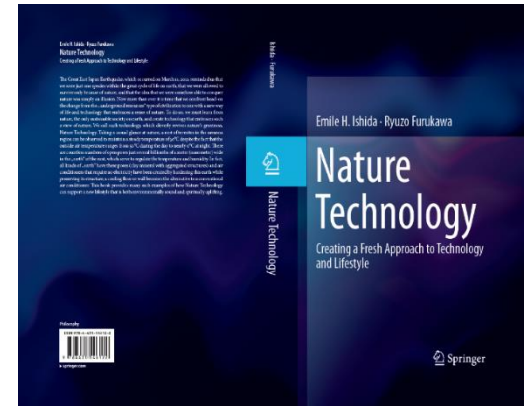
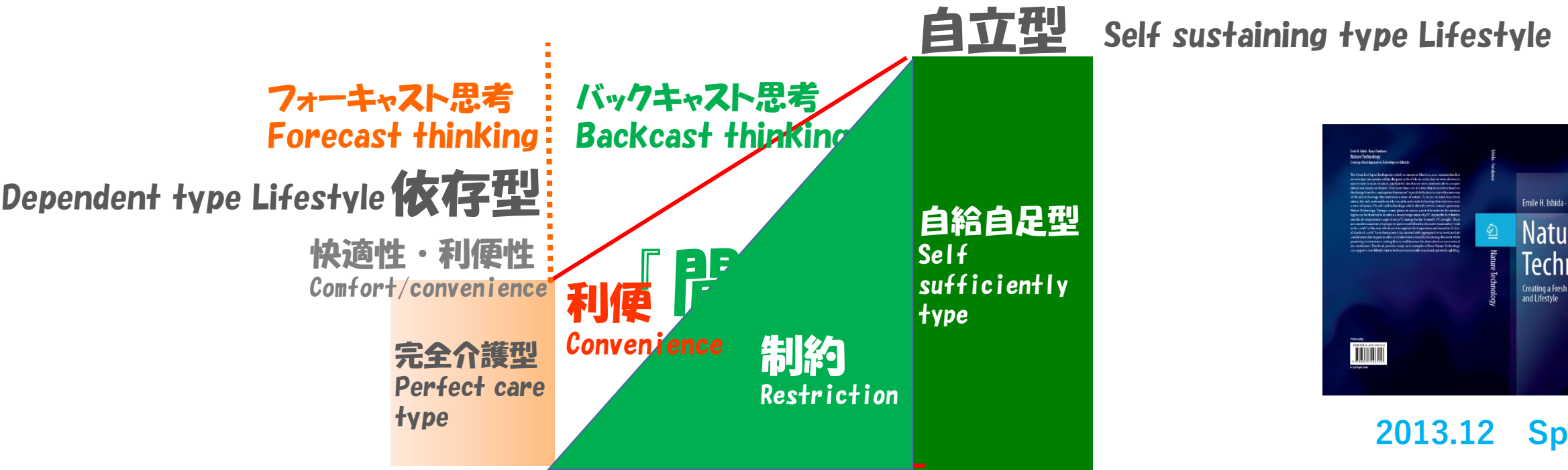
心豊かな暮らし方のかたち (間抜けの研究)

Fulfilling Lifestyle will be created by filling a Gap(Ma)



人と地球を考えた あたらしい暮らし方のかたち (環境と成長の両立)

ちょっとした不自由さや不便さを自分の知恵や技を使って乗り越えたい！！



2013.12 Springer

第3階層の第2階層をつなぎたい… すでに多くの予兆が現れている

Want to have the continuity of 2nd and 3rd brain…
many predictive information are already there

車から自転車に
Vehicle to bike



家庭菜園
Home garden



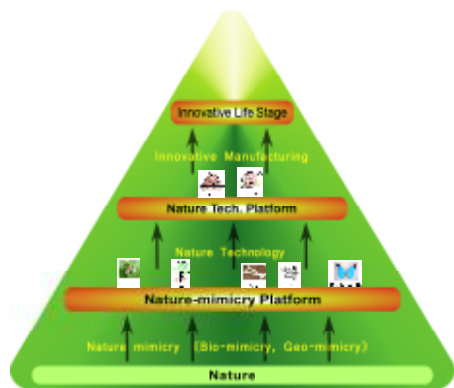
DIY



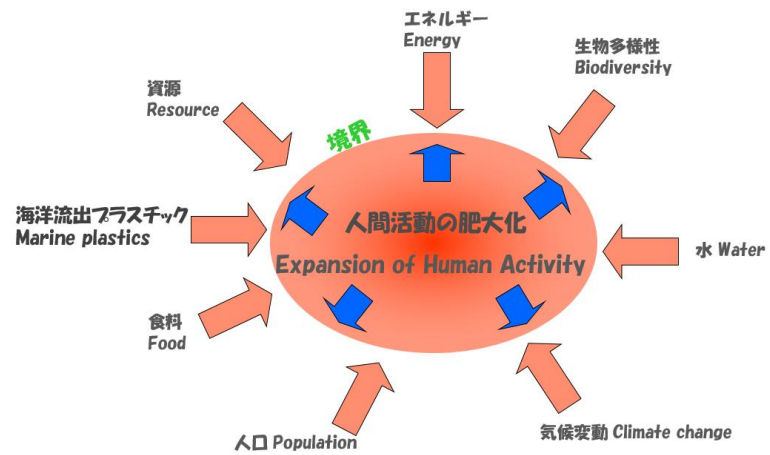
週末はアウトドア
Stay at outside on weekend



3. 現在の社会の動き そしてそれを加速させるには？



地球環境の劣化 Degradation of Global Env.

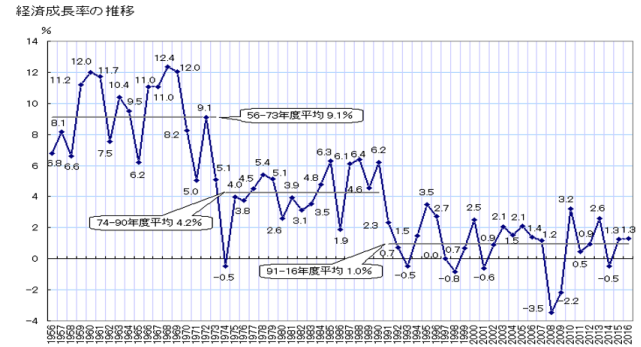


限界
Reach a limit



新定常化社会
Steady Society

従来の延長(公共投資、大イベント)で、日本の経済成長は支えられるのか?
Extension of the past politics can lead the economic growth?



(注) 年度ベース。複数年平均は各年度数値の単純平均。1980年度以前は「平成12年版国民経済計算年報」(83SNAベース)、1981~94年度は年報(平成21年度確報、83SNA)による。それ以降は2008SNAに移行。2017年4-6月期1次速報値 <2017年8月14日公表>
(資料) 内閣府SNAサイト

⇒ **社会の閉塞** ⇒ **少子高齢化・人口減少**

Sense of Stagnation **Low birth rate and longevity**
/ population decline

グローバル資本主義の劣化

Degradation of Financial Capitalism

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



2015.09 持続可能な開発のための2030アジェンダ
(国連加盟国193ヶ国)

2020.03.10 「欧州新産業戦略」
EU単一市場をターゲット 27ヶ国 1900兆円
(1) 欧州産業の競争力の維持
(2) 「欧州グリーン・ディール」が掲げる
2050年までの気候中立の実現
(3) 「欧州デジタル化」への対応



COMMUNICATION FROM THE COMMISSION TO THE EUROPEAN PARLIAMENT, THE EUROPEAN COUNCIL, THE COUNCIL, THE EUROPEAN ECONOMIC AND SOCIAL COMMITTEE AND THE COMMITTEE OF THE REGIONS

A New Industrial Strategy for Europe

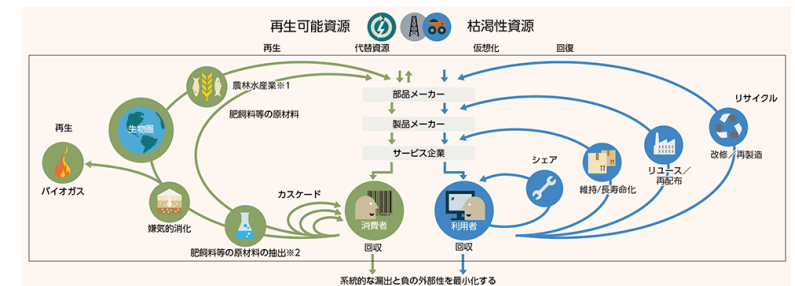
Brussels, 10.3.2020
COM(2020) 102 final

パリ協定の概要

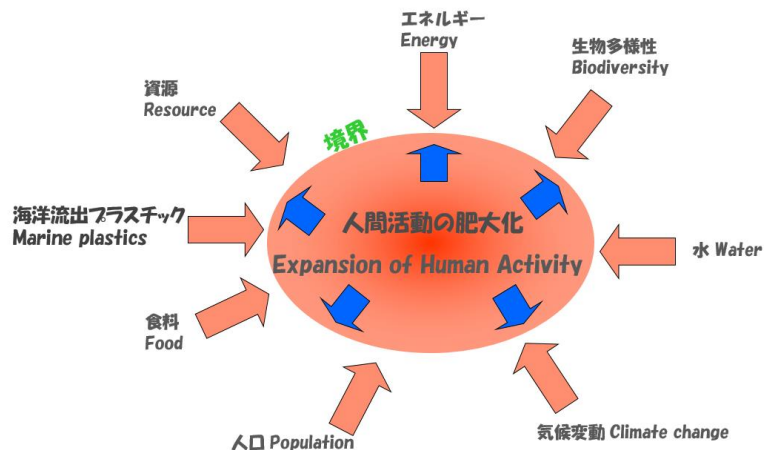
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・気温上昇を2℃未満に 1.5℃以内へ努力 ・今世紀末までに排出量を実質ゼロに
排出削減	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての国は目標を設定し政策を講じる ・5年ごとに目標を更新し報告する
資金供与	<ul style="list-style-type: none"> ・先進国は資金を供与しなくてはならない ・その他の国も自主的な資金供与を推奨
脱退	<ul style="list-style-type: none"> ・協定発効後3年以内は脱退を通告できない ・脱退通告はその1年後に効果を生じる ・条約を脱退した国はパリ協定からも脱退

2016.11発効 195ヶ国とEUが締結(2019.12)
現在の流れ 2030 温室効果ガス半減、2050年ゼロ

欧州グリーン・ディール = 2050年クライメートニュートラル



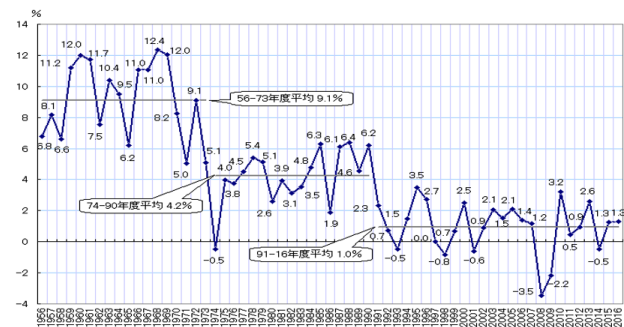
地球環境の劣化 Degradation of Global Env.



限界
Reach a limit

従来の延長(公共投資、大イベント)で、日本の経済成長は支えられるのか?
Extension of the past politics can lead the economic growth?

経済成長率の推移



(注) 年度ベース。複数年平均は各年度数値の単純平均、1980年度以前は「平成12年版国民経済計算年報」(83SNAベース)、1981~94年度は年報(平成21年度確報、83SNA)による。それ以降は2008SNAに移行。2017年4-6月期1次速報値 <2017年8月14日公表>

(資料) 内閣府SNAサイト

**コロナ禍
Corona
Pandemic**

**加速できる?
Can
accelerate?**

新定常化社会
Steady Society

グローバル資本主義の劣化 Degradation of Financial Capitalism

新定常化社会への移行を加速させるには

コロナ禍で物資の移動が大きく制限され、**温室効果ガスの排出量は30%削減*1**

これは日本の目標である2030年-26%に匹敵

(現実的には-50%が求められている)

我慢という制約ではあったが、**我々の意思で行動変容を起こせることが明らかになった。**

我慢ではなくそれを**達成観や充実感に変える**ことが出来れば、世界は**ドラスティック**に変えられ、そして未来の子供たちに、**こころ豊かな暮らしという素敵なバトンを手渡す**ことができると確信した。

*1 生物多様性にも長期的な視点では好影響が出ていることは確かである



その新しい達成感や充実感は、自然を基盤とした自立的な暮らしの中心
とした不自由さや不便さを、個やコミュニティの知識、知恵、サ
る「間」である

新定常化社会
うよっ
くれ

そのような社会に求められるテクノロジー
テクノロジーが自然を基盤とした暮
んだ日本人の多元性を基盤

育つてくるテクノロジー
育つてくるのか、自然の智慧や叡智に学
ニ/バージョン概念(ニ/バージョン)*2が求められる

今こそコロ
なく

ニ/バージョンの概念をSDGsやCEと合体させれば、新定常化社会
への移行はより加速されるのではないか！！
(生命文明)にしなければ未来の子供たちに手渡すボタンが割れ



@Hoiclue ♪

*2 ニ/バージョン N(New, Nature, Nippon)-Innovation) 日本人が培ってきた智慧を活かし、地球・自然
視点で、テクノロジーイノベーション、人々の暮らし方、社会経済システムの刷新を目指す

<https://hoiclue.jp/4031.html> 31

新定常化社会とは？

Mining the past for the future!

ニ/バージョンとは **生命文明社会 (Nature - Human oriented paradigm)**への加速器

それは、**自然の叡智を基盤にした経済も社会も豊かになるあたらしい文明**

自然観を基盤にした間を埋めるライフスタイル

そのライフスタイルに必要な自然の恵みと自然に学ぶテクノロジーやサービス

生み出される新しい価値観 (自由の相互承認)

消費 から 循環へ
競争 から 調和へ
成長 から 和合へ



ジュリアン・ハクスリー (生物学者 英国) 進化の4段階説

Sir Julian Sorell Huxley (Biologist UK) Four steps of evolution theory



1. 宇宙の進化 物質の進化
evolution of space and material
2. 生物の進化
evolution of living object
3. 人類の進化 数百万年前に出現し、文化によって環境を改変し、新たな環境に適応することで進化した
evolution of humankind
4. 自己規制する進化 地球史の中の自己の存在を客観視・修正するようになった現代人は、受動的では無く主導的に人の進化に修正を加えることが出来る
evolution of potentially a self

自己規制 = 個のデザイン

現代文明は人類進
Civilization of

修正する文明は人類の未来への唯一の可能性ではないのか?
.. correcting may be a only chance for humankind of future?

新しく、便利で、経済効果のあるものが正しい時代は終わった スティーブジョブズ
Less is more Steve Jobs

Nature Technology = N-Innovation

Creating a Fresh Approach to Technology and Lifestyle

地球村研究室
Earth Village Research Lab. LLC

ありがとう
ございました！
島にも是非
お越しく下さい！

